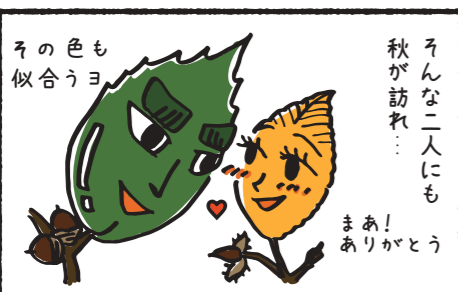
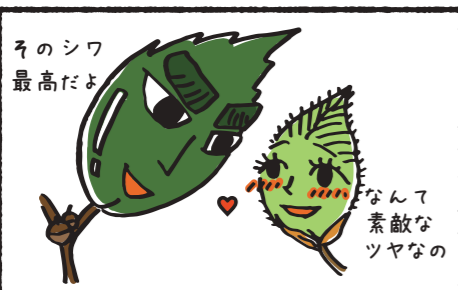


「FUN FUN」

たかおさん



「アラカシオとイヌブナ子の禁断の恋」の巻



高尾山の歴史がもっと好きになる？

「高尾山のれきし」ちょこっと話

～小仏峠物語最終話～

今も残る峠の道の難所?ぶり

小仏峠付近の交通事情の発展ぶりは本編の通りですが、やはりそれでも峠越えの大変さの名残がうかがえます。峠道を歩くよりも遙かに楽になりましたが、気持ちと時間に余裕をもって臨みたいですね。

■国道20号線の大垂水峠付近

片側1車線の勾配のある曲がりくねった見通しの悪い道には、制限時速30km、駐停車禁止、転回禁止、追越禁止などの道路標識が並んでいます。くれぐれも安全運転で!

■中央線の高尾駅と相模湖駅の区間

JR東日本八王子支社によると、駅区間は9.5kmあり支社エリア内では最長とのこと。乗車時間は普通電車で約9分だそうです。うっかり乗り過ごしたら大変!

■中央自動車道小仏トンネル付近

行楽シーズンになると、ほぼ必ず渋滞情報に出てくる大渋滞発生地帯。トンネルや緩やかな傾斜があることで、運転手が無意識に速度を落としてしまうのが原因なのだから。車線が少ないこともその一つだそうです。やっぱり安全運転で!

アラカシは常緑樹ですが、イヌブナは落葉樹のため秋には葉を落としてしまいます。



あわてんぼうの雪

解説員 くらむ vol.8

11月24日は、関東地方でも雪。11月の東京での降雪は54年ぶり、高尾山の麓では5cm、山頂では10.5cmも積雪がありました。紅葉シーズンで大賑わいしていた山頂の景色は一変し、閑散としました。いつもの通勤路である登山道では、紅葉したモミジの赤色に積もる雪の対照的な色合いが印象的でした。

さて、雪といえば「雪虫」と呼ばれる昆虫がいることをご存知でしょうか? 秋が深まると目につくようになるタマワタムシという仲間のアララムシです。体に糸状の蛾(ろう)物質がついていて、綿にくるまれているような姿をしています。飛んでいる様子が、まるで雪が舞っているように見えるため「雪虫」と呼ばれます。初めてこの虫を見たときは、雪というより体がカビだらけに見えてしまったほど、モフモフとした可愛らしい姿をしています。

いつもなら雪が降るより前に雪虫が飛び交うので、雪虫と雪を同時に見られることなんてありません。しかし、今年には雪が降った数日後に姿を見かけました! 11月に積雪とは驚かされましたが、雪虫たちも想定外だったのではないのでしょうか? 「おいおい! こちらが先だろー!」とだいぶ早い雪の到来に驚いていたかも知れませんね。クリスマス前にやってきた、あわてんぼうのサンタクロースの唄を思い浮かべてしまいました。

紅葉と雪、雪虫と雪という景色は想定外の天気がもたらしてくれた思わぬ贈り物でした。

解説員 福澤

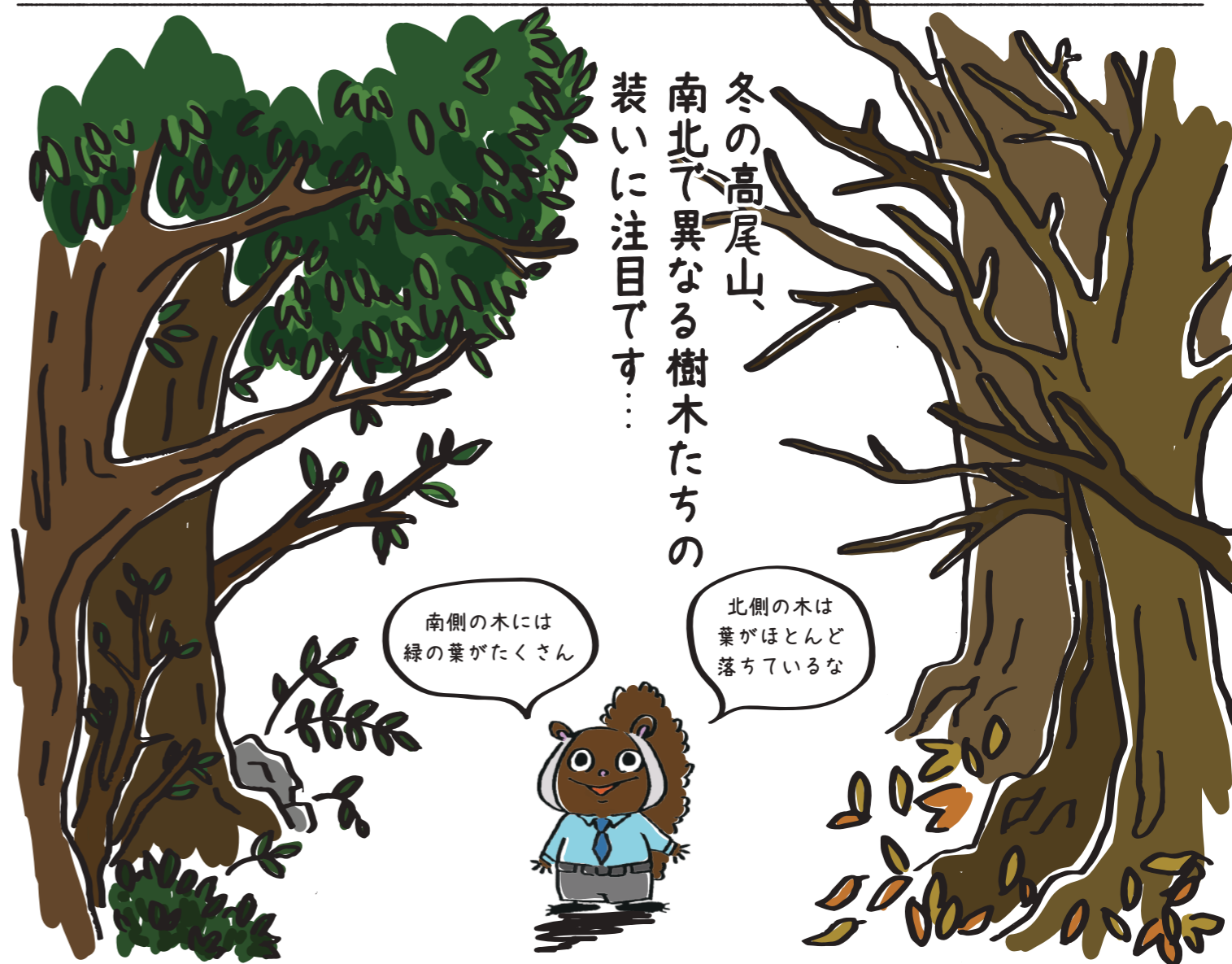
高尾山山頂から発信!

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。



vol. 46 季刊
2017年冬号



冬の高尾山、南北で異なる樹木たちの装いに注目です...

冬の高尾山、1号路を歩いていると道の左右(南北)で樹木たちの様子が全く違うことに気づきます...。南側には1年中緑の葉を付けた常緑樹、北側には秋から冬にかけて葉を落とす落葉樹という、なんとも対照的な景色が見られるのです。

この景色にこそ、高尾山が生きものの宝庫と言われるヒミツが隠れています。では、そのヒミツとはいったい何なのでしょう...?



おすすめスポット

1号路を境界線に、山頂方面を向いて男坂(南側)女坂(北側)を見比べてみてね。南北の対照的な植生の違いがよくわかるよ。

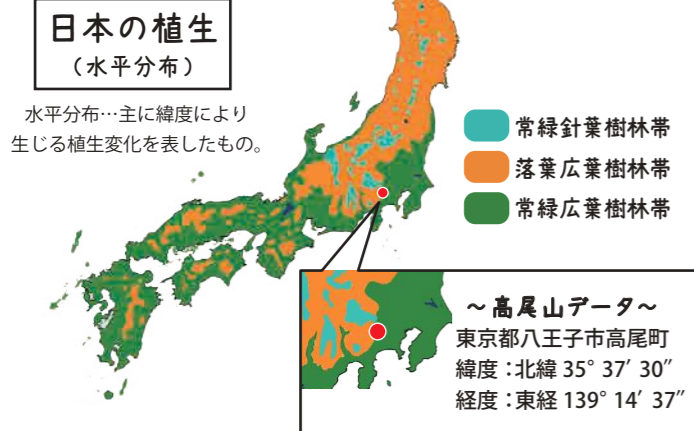
南側 シイ、カシ類などの常緑樹林 (カヤ アカガシ シラカシ ウラジロガシ ミヤマシキミ アオキ ヤブツバキ など)

北側 イヌブナ、ブナなどの落葉樹林 (ブナ ホオノキ トチノキ メグスリノキ サワシバ など)



ヒミツの1

2つの気候帯のちょうど真ん中に位置する



樹木は環境によって、生育する樹種が大きく変わります。

生育する樹種を分ける最も大きな要因は気温。他に、降水量や日照時間なども樹種に大きな影響を与えています。

南北に長い日本列島は、亜熱帯から亜寒帯までのバリエーション豊かな樹木が生育しています。高尾山は暖温帯と冷温帯との境に位置する、珍しい場所なのです。

※ここに掲げた植生図は松倉一夫(著)「樹木観察ハンドブック」から描いたものです。

ヒミツの2

北斜面と南斜面の温度差

高尾山を歩いていると、北斜面と南斜面で感じる気温の差に気づきます。北斜面に位置する4号路や蛇滝コースなどは、空気がとてもひんやりしているように感じ、対して南斜面に位置する3号路などは、日当たりがとても良く温かく感じます。

この温度差もまた、南北での植生の違いを際立たせ多様性を生む、重要な要素だと考えられています。

コラム

高尾山のブナ

高尾山のブナがしばしば話題になることがあります。元来、ブナは標高900～1000m以上の山に生育する植物なのですが、

葉っぱに現れる植生の違いをもっとよく観察してみよう！

比較的温かい環境で育つ常緑広葉樹



冬が寒く厳しい環境にも適応した落葉広葉樹

低温や乾燥に最も強い常緑針葉樹



参考文献：「高尾山の自然・文化・歴史 文献資料集」高尾山自然保護実行委員会「日本の生物 (1998⑨)」文一総合出版

さいごに

私は高尾ビジターセンターに勤め始めて今年で4年目となりますが、未だこの山の奥深さに驚かされるのが度々あります。今回取り上げた環境的背景により生まれた多様な植生は、その後、薬王院や北条氏存在によって手厚く守られていきます。高尾山はこのようないくつもの背景が重なり合い、現在の姿があるのです。

選ぶコースや季節によって様々な表情を見せてくれる高尾山。今回の特集が、皆さんにとって新たな高尾山を知る1つのきっかけとなれば嬉しいです。

〈解説員 梅田〉



人と歴史がつなぐ道

小仏峠物語 最終話

交通の発展とともに時代の歩みを止めた小仏峠、そこには郷土の風景と、たくさんの先人の足跡が残されました。足の疲れに昔を思い、先を目指して次を踏み出す。小仏峠はそれができる場所なのです。

小仏峠の道は、明治時代の初め頃まで、重要な街道として歩かれてきましたが、その急勾配の狭い道は、笹子峠に次ぐ難所とされ、『峠を越える』の諺のごとく、行き交う人々は難儀していたようです。

やがて文明開化を迎え、馬車や鉄道などの車両が普及し始めると、小仏峠と周辺の交通事情は大きく変化していきます。

明治21(1888)年、小仏峠の南、大垂水峠を通る国道が開通します。馬車の通れるこの道は、後にさらに改修されて現在の20号線となりました。

明治34(1901)年には、小仏峠の地下にトンネルが通り、八王子と上野原を結ぶ鉄道が開通します。昭和39(1964)年、トンネルがもう一つ整備され、今の中央線の姿となりました。

昭和43(1968)年、小仏トンネルを通る中央自動車道が開通し、自動車の高速移動が可能になりました。

これらの道は今でも大活躍しているほどの目覚ましい発展ぶりですが、その一方で、車両の通れない小仏峠の道は、街道としての役割を失っていききました。

しかし、このことは峠の原風景の保存にも繋がりに、周辺の交通の便利さとも相まって、小仏峠に自然公園の道という新たな役

まさかこんな日が来るとは…



〈解説員 藤野〉

割をもらいました。自然や風景、そして歴史を楽しめる、日帰り程度のハイキングコースとして、今に歩かれるようになったのです。

小仏峠の道の歴史、武田信玄の武將の奇襲、徳川幕府による五街道の甲州道中の整備、戊辰戦争の旧幕府と新政府軍の行軍、明治天皇の巡幸、そして、周辺の交通の発展と、自然公園の道としての今。

難所が残した古の道、脈々と歩まれてきた道筋のその先には、これからの展望が照らされているかのようです。

私たちが歩み続ける限り、小仏峠はその行く末を見守ってくれることでしょう。

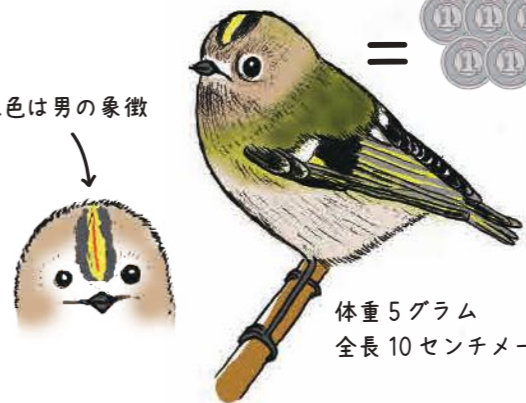
見つけやすい時期…落葉後の冬。見つけやすい場所…モミなどの針葉樹の枝先や幹。カラ類の混群に交じっていることもあります。

冬の鳴き声…ツイツイ チチチ

〈解説員 佐藤多寿子〉

英名は Goldcrest (直訳：金のとさか)

朱色は男の象徴



キクイタダキ【菊戴】

日本最小最軽量

いちおし vol.4

解説員の